

第 7 6 回 霊 仙 山

昭和60年11月22日（金）～23日（土）

茨木 ー 京都 ー 醒ガ井 ー バスー 下松尾（泊）
1700 1725 1852 1903

下松尾 ー25分ー 浄水場 ー30分ー 林道終点 ー40分ー こうもり穴
ー50分ー 漆ガ滝 ー60分ー 尾根道との出合 ー25分ー 経塚山
ー10分ー 霊仙山 ー10分ー 経塚山 ー15分ー おとらが池 ー60分ー
汗ふき峠 ー15分ー 樽ヶ畑（廃村） ー55分ー 醒ガ井養鱒場

ー20分ー 米原 ー 京都
1859 2012

民宿 ますや ☎ 0749- 54- 0256

近江バス（彦根） ☎ 07492- 2- 3301

醒ガ井駅前を発車したバスはすぐ名神高速道路をくぐり、惣谷川に沿って走る。上丹生バス停で降りると、支流の丹生川に沿うコースを示す指導標が、左に道をとることを示している。また、野猿公園の猿の日々の動静を示す案内も併記されているのは興味深い。

伏流、清水の流れが交互に現われ、どんな干天の時にも水の枯れたことのない漆ガ滝（霊仙滝）を落とし、急崖に四季折々の風情も豊かな明るい谷山谷に、南西風の景観を楽しみ、山頂とその南に続く瘦尾根に雄大な展望を満喫するのが、これからのたどらうとする谷山谷道と西南尾根道とを結ぶこのコースの特徴である。また、バスを降り立った上丹生は、本地師の流れのひとつ——白木の仏壇作りを業とする彫師の多い集落で、土地で「アカバエ」と呼ぶ小魚が群遊する丹生川の狭い清流を挟んで連なる静かな山麓の村である。

指導標に従って左にとり、家並が尽きると浄水場が現われて、左にイモエ谷林道を分ける。すぐ野猿公園入口があり、ここで橋を渡って左岸へと林道がのびている。付近には一群の野猿がよく餌付けされ、のびのびとわわっている。

やがて林道が山道に変わり、狭い谷の伏流の中を、何度も左、右にと渡り返したり、石飛び道となったりしながら緩く登っている。乾いた礫の下から、思い出したように湧く清水や大きな岩、石灰岩洞窟など、変化のある谷の眺めと幾種もの落葉広葉樹に季節感を味わいながらのんびりと歩こう。よく踏まれた道で、ルートを見失うことはまずあるまい。

漆ガ滝（霊仙滝）は三つと七つほどのややナメ滝状のささやかな二段の滝で、その割には大きな滝壺、水の青さが印象的だ。戻り気味に左岸を巻くと、やがて右からの小さい支

流に沿って登るようになる。

樹林を抜け、スズケを分けると柏原道の八合目付近の鞍部に飛び出す。

九合目から頂上部への緩やかな広大なスキの海となる。琵琶湖国定公園特別地域の標柱やケルンの立つ経塚山（北霊仙）を経て、いったん鞍部へ少し下ると、三角点頂上は近い。展望のすばらしさは前途の時間を忘れさせ、立ち去り難くするほどだが、ひとたび霧や吹雪に見舞われると非常に危いので、特に冬の気象変化には注意していただきたい。

下山は経塚山に戻り、ここで柏原道と分かれて直角に左（西）へ。よく踏まれた道を下ると笹原をかき分けて、次第に高度を下げてゆく。

際立った瘦尾根でも、ハッキリした沢筋でもない変化に乏しい中腹をゆく。途中、お虎ガ池とか水のないドリーネ、幾つかのカレンフェルト（墓石石灰岩）を過ぎ、お猿石、見晴台等を経て汗拭峠におり立つ。

なお、峠までの途中で枝道が分岐するが、結局、峠で一本に合わる。峠には幾本もの指導標が立っていて、右すれば廃村の樽ヶ畑、左にすれば植林の中を下って落合経由霊仙洞窟である。

右にとって下ると、ほどなく廃屋の点々と残る暗い感じの樽ヶ畑。廃村を抜けたところから、明るい林道が惣谷川の右岸の急斜面に新しく開かれた。養鱒場までは分岐のない緩い斜面の下りで、廃村から林道を約1時間で養鱒場だが、常に山側（右手）からの落石に注意のこと。養鱒場からはバスが醒ガ井駅に通じている。